

●国家と民族の問題を、抵抗や服従ではなく、言語的・非言語的な「実践」の視点で捉え、歴史や文化からの引き剥がしに対する、人々のしなやかな「立ち位置」を描く。

# 文化の政治と生活の詩学

——中国雲南省徳宏タイ族の日常実践

長谷千代子 著

本書では、一九四〇年代以降の現代中国における国民化の過程で、「文化」に関わる言説が少数民族の人々の生活を再編する様子に着目している。中国では、国民が身につけるべき思想や生活様式の理想を掲げる社会主義的な語りの制度が発達しており、とりわけ少数民族に対しては、「民族伝統文化」のほか、「風俗習慣」「封建迷信」「宗教」などの近代的なカテゴリーの語彙群が、国民化のために用いられてきた。

ただし各カテゴリーの内包的意味は、それが現実の社会で運用される過程で刻々と変化し、またそれが外延として指示する儀礼や祭りのような現実の行為も、異なる時間と場所での繰り返しという差延のなかで変化している。たとえば「民族伝統文化」というカテゴリーがあるときは文芸などの「高尚」とされる文化のみを意味することもあれば、あるときは素朴な風俗習慣としてイメージされることもある。

……そしてたとえば政府が、水かけ祭りという具体的な行為を、「これこそ「民族伝統文化」である／ではない」という形で「民族伝統文化」という概念に連結／切断しようとしたとしても、ある時にはその連結／切断に失敗し、ある時には成功するというように、その関連づけ自体もやはり時と場合によって変化するのである。このように、語りの制度は国家が自ら望むほどには完全にコントロールできるものではなく、人々の日常実践や、グローバル化といった現象の影響を、そのときそのときの状況に応じて考慮する必要があるのである。

本書は「文化」カテゴリーに関わるこうした各レベルでの言語的・非言語的実践全体の動態を追うことによって、生硬なカテゴリーの言説に揺さぶりをかける「詩学的」な日常実践の様相を描き出し、少数民族という視点からみた中国的近代性の一端を明らかにするモノグラフとして構成されている。

まえがき

第一章 はじめに——現代中国における「文化」の再編

第二章 水かけ祭り——「民族伝統文化」の基準

1 擺夷の浴仏節からタイ族の水かけ祭りへ

——一九四〇年代～一九六五年

2 「宗教迷信」から「風俗習慣」そして「民族の伝統節日」へ——一九六六～一九九〇年代

3 表象の膨張——一九九〇年代～二〇〇一年

4 表象の分裂——二〇〇二年以降

第三章 ポイ・パラ——「宗教」の名のもとで

1 中国の宗教政策と徳宏州の仏教

2 ポイ・パラ——〈仏の教え〉

第四章 〈仏の教え〉——近代性との邂逅

1 ポイ・パラと「文化」のカテゴリー

——「宗教」「風俗習慣」「民族伝統文化」

2 正統性への希求——「仏教」カテゴリー

3 社会主義精神文明の波

——「風俗習慣」と「移風易俗」

4 「仏教」の排除と回帰

第五章 神々の宿る場所——文化的カテゴリーの空白

1 ムアン・ホアンの神々

2 関公廟におけるタイ族と漢族

3 「漢族」の所在

4 狭間の実践の不可視性

第六章 おわりに

1 「文化」の再編の限界

2 「文化」再編の政治をめぐる生活の詩学

3 日常実践——結びにかえて

引用文献・索引

体裁

・A5・上製カバー

・三九二頁

税込み定価

・六三〇〇円

(本体六〇〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-149  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

税込み 六三〇〇円

部

発売 風響社 TEL: 03-3828-9249

長谷千代子 著

文化の政治と生活の詩学

中国雲南省徳宏タイ族の日常実践

ISBN978-4-89489-123-4 C3039 ¥6000E

注 文 書

流通センター  
取扱品

地方出版

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所

お電話

月 日